

駒場

1999

東京大学大学院総合文化研究科
東京大学教養学部



KOMABA 1999

GRADUATE SCHOOL OF ARTS AND SCIENCES
THE UNIVERSITY OF TOKYO, KOMABA

GRADUATE SCHOOL OF ARTS AND SCIENCES
THE UNIVERSITY OF TOKYO, KOMABA

[駒場] 1999



表4に使われている3枚のイチョウのロゴデザインは、
設立50周年を記念して、
東京大学大学院総合文化研究科・教養学部の新たなシンボルとして策定された。
東京大学のシンボルであるイチョウの葉を3枚重ねることにより、
学部前期(教養)・後期・大学院の三層にわたる教育の融合と、
世界と未来に向けた学問と人の限らない交流と創造をイメージしている。
制作は、(株) 石塚静夫氏。

表紙について

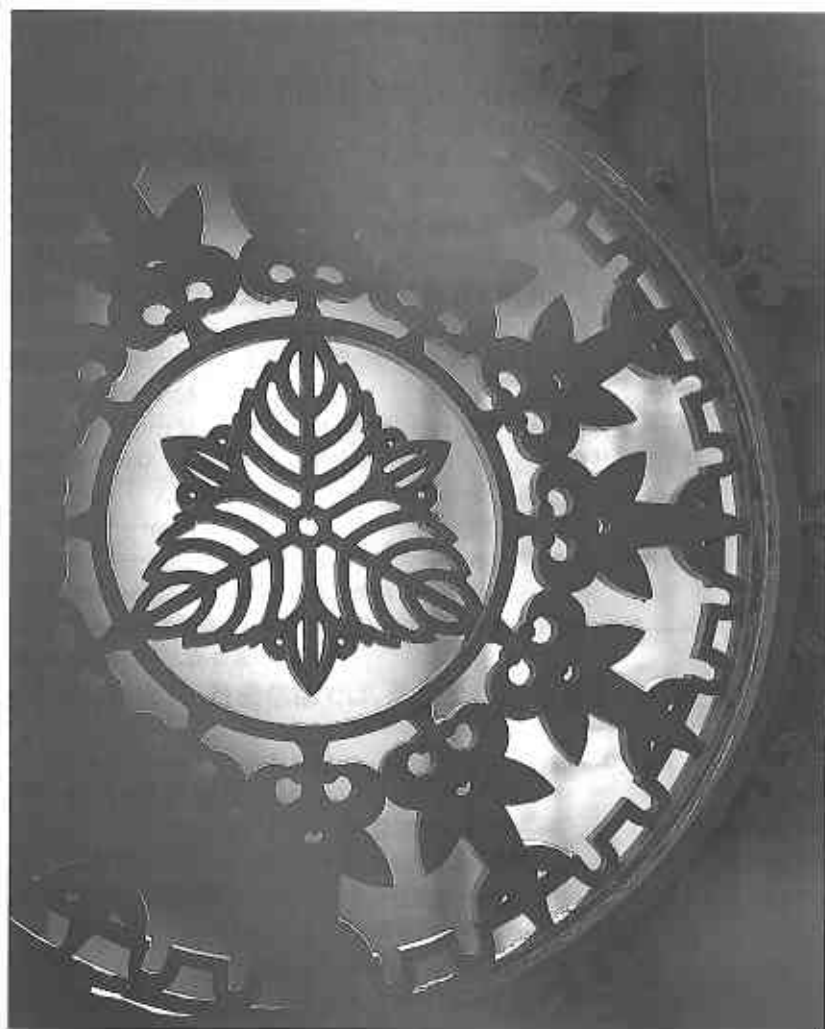
正門扉にはめこまれた第一高等学校校章

駒場キャンパス正門は以前の旧制第一高等学校時代の正門を門扉とともにそのまま引き継いだものであり、各扉に嵌め込まれている透かし模様中央にあるのは、第一高等学校の校章である。このマークの歴史は古く、第一高等学校の前身である第一高等中学校が明治19年（1886年）に設立されたときに柏葉橄欖（はくようかんらん）章として制定されたもので、当時は中央に「一中」の文字を円で囲んだものが入っていた。第一高等学校になってこの部分を削り、いま正門の扉についているマークになったのである。このマークの柏は軍神マルス、橄欖（オリーブ）は智と美の女神ミネルヴァを象徴するというのが当時の説明で、文武兼備の精神を表したものとされていた。でも柏のほうが威勢が良くて心なしか橄欖の影が薄いように見えるのは、その後の日本の辿った道のことをつい思ってしまうからだろうか。第一高等中学校以来、校旗は護国旗と称し、そこではこのマークの中央に「國」の字を入れたものが用いられていた。ところでこの門扉だが、時計台の建物（いまの1号館）と同時に出来たものではない。ここに第一高等学技の建物が建ったのは、関東大震災後、東京帝国大学がこの地にあった農学部を本郷の現在地に移転させようと考えたからで、現在、農学部のキャンパスになっている弥生町（弥生式土器の名はこの町名による）に在った一高がこれを受け、当時は田園の駒場に移る条件として帝大スタイルの建物を建てることを求めて、このキャンパスが生まれたのである。それが第二次大戦後、新制の東京大学に組み入れられたのは奇しき偶然である。一高が移転してきた昭和9年（1934年）には、まだ井の頭線も開通しておらず、時計台の建物や学寮などは建っていたものの、正門前の都市計画が未定のため垣も門も出来ていなかった。昭和12年（1937年）の11月に菅虎雄教授に第一高等学校の門札の揮毫と篆刻を依頼しているから、おそらく正門とその門扉が完成したのは一高創立60周年の昭和13年（1938年）のことだったのであろう。この正門をはじめ、時計台の建物、いま教務課と美術博物館が入っている旧図書館の建物、900番教室として用いられている旧講堂、事務棟となっている特設高等科教室（日本占領下の中国などからの学生が学んだ）、それに学寮の建物は、すべて後に東大総長となった工学部建築学科の教授で管轄課長を兼ねていた内田祥三とその弟子たちのデザインであり、隣の先端科学技術研究センター（先端研）の古い建物もまた同じ手にかかるものである。内田教授はアメリカのアイビー・リーグが採用しているゴシック・スタイルをキャンパス・デザインの基調としたが、弟子たちは当時のヨーロッパの表現主義にひかれるところがあり、駒場キャンパスのデザインにもその両方の特徴が現れているのが見える。学寮の建物と先端研の塔などに見える曲線の構成や旧講堂と旧図書館の側面の段状のデザインと、内田流のゴシックでまとめられた時計台をくらべるとそれがわかるだろう。ちなみに本郷の安田講堂ではその両方の要素が折衷した形になっている。

（横山 正）

GRADUATE SCHOOL OF ARTS AND SCIENCES
THE UNIVERSITY OF TOKYO, KOMABA

[駒場] 1999



東京大学大学院総合文化研究科
東京大学教養学部

【駒場】1999

東京大学大学院

総合文化研究科

東京大学教養学部

●目次

まえがき——7

教養学部設立50周年にあたって——8

I 1999年度における大学院総合文化研究科・教養学部

1 設立50周年事業——10

1.『東京大学は変わる—教養教育のチャレンジ—』の出版について——10

2. 50周年記念イベント——12

2 前期課程教育の授業外部評価の実施——16

1.カリキュラム改革の自己点検および外部評価——16 2.授業外部評価——17

3.情報関連科目の授業外部評価——18 4.物理関連科目の授業外部評価——20

5.スポーツ・身体運動関連科目の授業外部評価——21

3 「(仮称)駒場図書メディアセンター」(第1期)の実現——24

4 COEの誕生——複雑系としての生命システムの解析——27

5 施設・環境の整備——31

II 大学院総合文化研究科・教養学部とはどのような組織か

1 沿革—東大駒場——34

6 各種委員会——41

2 教育研究上の特色—学際性と国際性——35

7 予算——43

3 教育・研究組織の特色—三層構造——36

8 キャンパスの現状と将来計画——44

4 教官集団—多様多才な人材——38

9 事務組織——48

5 意思決定の機構——39

III 大学院総合文化研究科・教養学部における教育と研究

1 前期課程——50

1.前期課程教育の特色——50 2.前期課程のカリキュラム——51

2 後期課程——55

1.後期課程教育の特色——55 2. AIKOMプログラム—短期交換留学制度——55

3.超域文化科学科——57 4.地域文化研究学科——59 5.総合社会科学科——61

6.基礎科学科——62 7.広域科学科——64 8.生命・認知科学科——65

3 大学院——69

1.大学院教育の特色——69 2.言語情報科学専攻——69 3.超域文化科学専攻——71

4.地域文化研究専攻——74 5.国際社会科学専攻——76

6.広域科学専攻生命環境科学系——79 7.広域科学専攻関連基礎科学系——81

8.広域科学専攻広域システム科学系——83

IV 大学院総合文化研究科・教養学部では、誰がどのような教育・研究を行っているか

凡例——88 専任教官——90 客員教官——260 外国人教師——268

V 駒場の教育・研究・厚生施設

1 図書館——276

9 低温サブセンター——288

2 アメリカ太平洋地域研究センター——278

10 留学生相談室・駒場国際ショナルオフィス——289

3 情報基盤センター情報メディア教育部門——280

11 学生相談所——291

4 美術博物館——282

12 進学情報センター——292

5 自然科学博物館——284

13 保健センター駒場支所——294

6 バイオオルガン——285

14 キャンパスプラザ——297

7 SCS施設——286

15 柏蔭舎——300

8 共通技術室——287

16 三鷹国際学生宿舎——301

付属資料1

1999年度志願・合格・入学状況—304 2000年度進学内定者数—305 定員の推移—306

1999年度クラス編成表—307 研究生—309 留学生—310

付属資料2

シンポジウム—312 講演会—314 公演・演奏会—316 国際共同研究—317

学外からの評価(叙勲・受賞)—318 1999年度科学研究費補助金—319

1999年度奨学寄付金—331 1999年度受託研究—333 1999年度共同研究—335

研究活動の公表—336 1999年度の役職者—338 教養学部の全教官—340